

浅間山の噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）へ引下げ

浅間山では、本日（7日）13時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げました。

火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

浅間山では、2月2日に小規模な噴火が発生しました。その後、9日から17日までごく小規模な噴火が断続的に発生したほか、3月15日にごく小規模な噴火が発生しました。

その後、噴火は発生していません。

3月以降、火山性地震はやや多い状態が続いていますが、2月2日の噴火前にみられた周期の短い火山性地震の増加は認められません。

傾斜計による地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められません。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も依然多い状態が続いているものの、3月以降減少しています。

これらのことから、浅間山では火口から4kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと考えられます。

ただし、平成20年（2008年）6月以前と比べて火山活動は引き続き高まった状態が続いており、今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね2kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意が必要です。

火山ガス放出量の多い状態が続いていますので、風下側にあたる登山道等では、火山ガスに注意が必要です。

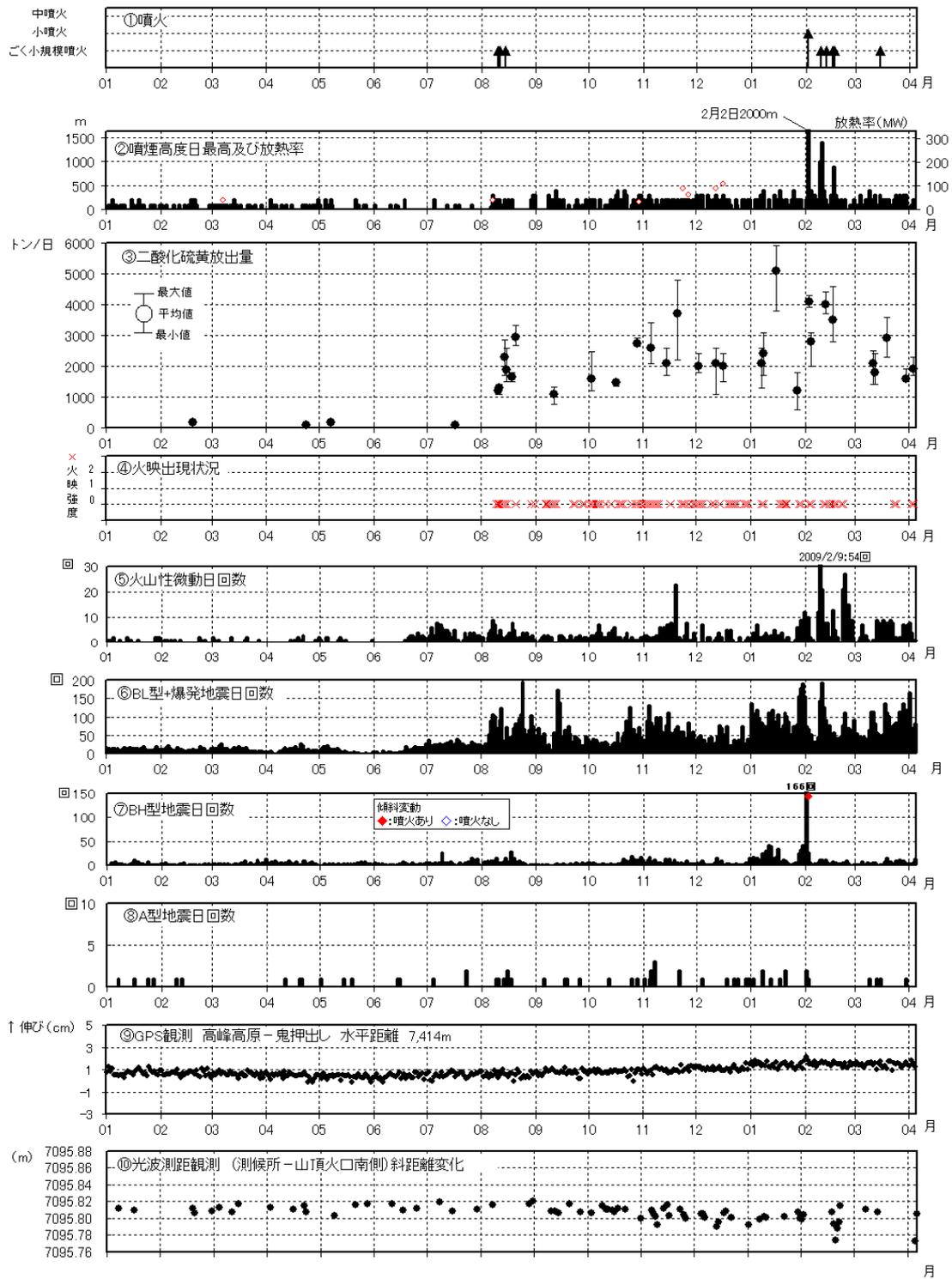


図1 浅間山 最近の火山活動の推移 (2008年1月1日~2009年4月4日)
 独立行政法人産業技術総合研究所による観測結果が含まれています。
 注3)を参照。

浅間山 (時間値)

2009/01/01 00:00 - 2009/04/06 11:14

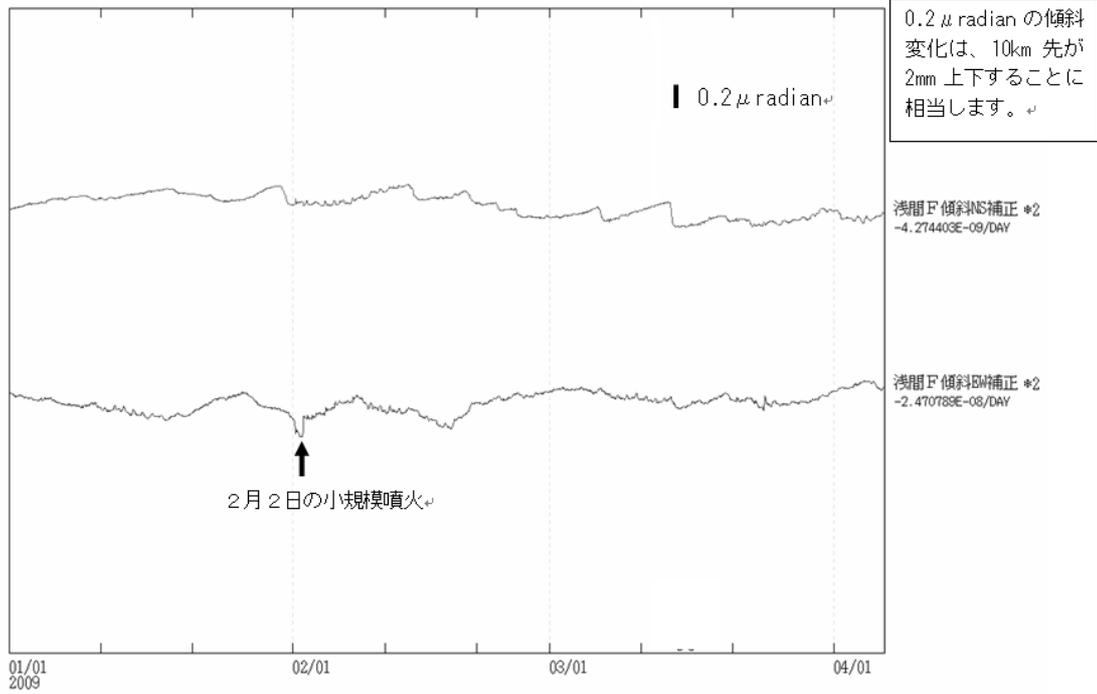


図2 浅間山 傾斜変化 (2009年1月1日00時00分～4月6日11時14分)

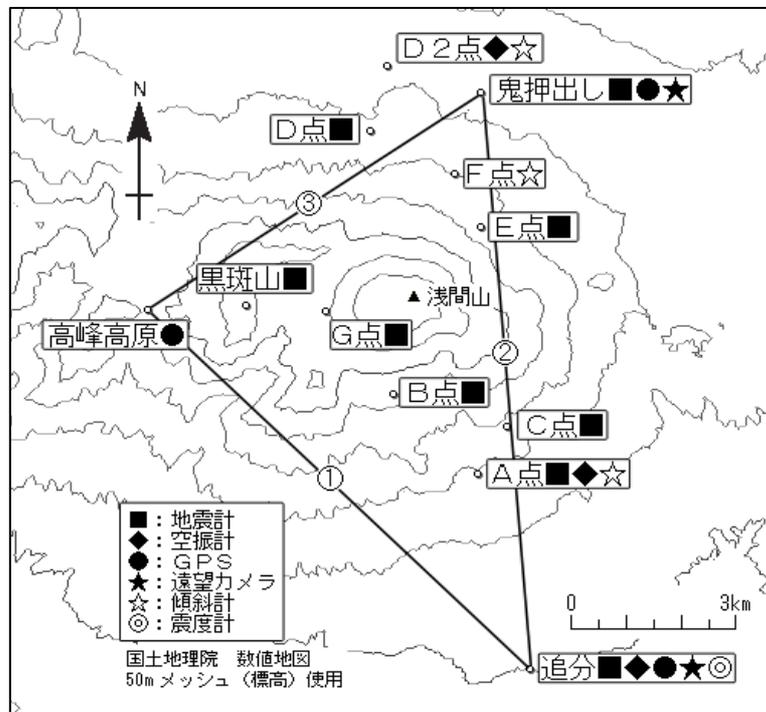


図3 浅間山 気象庁の観測点配置図 (小さな白丸は観測点位置を示しています)

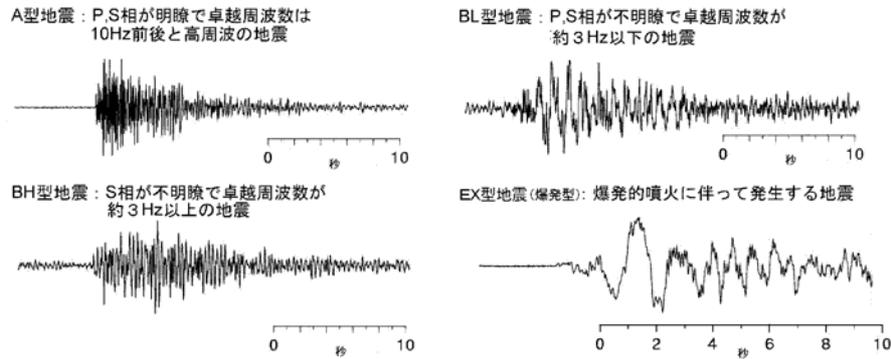


図4 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

注1) 火山性地震の計数基準はB点で最大振幅 $0.1\mu\text{m}$ 以上、S - P時間3秒以内です。
火山性地震の種類は以下のとおりです。

注2) 噴煙高度と噴煙量は定時観測(09時・15時)の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。

- 1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量
7：噴煙量6以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる
-：噴煙なし x：不明

注3) 火映の強度は以下の4段階で観測しています。

- 0：肉眼では確認できず、高感度カメラのみ確認できる程度 1：肉眼でようやく認められる程度
2：肉眼で明らかに認められる程度 3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度
-：火映なし x：視程不良(終日観測できなかった場合)

長野県建設部佐久建設事務所の黒斑山設置のカメラを監視に用いることによって、
2008年7月より火映の検知能力が向上しています。